

研修ニュース



〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

研修講座 B-3 人権・同和教育【3回連続講座】①

「人権・同和教育を進めていく上で大事にしたいいくつかの視点」

【講師】 伊賀市教育委員会学校教育課 指導主事 師井 佐知子

6月27日（木）に、「人権・同和教育連続講座【3回連続講座】①」を実施しました。今年度は、伊賀市教育委員会学校教育課師井指導主事より「人権・同和教育を進めていく上で大事にしたいいくつかの視点」というテーマでご指導いただきました。



前半は、受講者から事前アンケートをもとにした自己紹介をおこない、「子どもの生活背景を知ることの重要性を経験した場面や3回連続講座で学びたいことについて共有する時間となりました。

後半は、師井指導主事より大きく3点についてご講義いただきました。1点目は、子どもたちや保護者の現状（社会状況の投影）を読み解くことです。厚労省「国民生活基礎調査」より子どもの9人に1人が貧困であることから、どこの学校や地域でも「今日的な差別の現実」があり、「教育的に不利な環境のもとにある子」を中心とした取組が求められていることを学びました。

2点目は、人権・同和教育の中で大事にしてきた「なかまづくり」についてです。ここでいう「なかまづくり」とは、くらしの交流を通しての「なかまづくり」であり、しんどいことも出し合っただけの「なかまづくり」です。なかまづくりは、子どもたち同士の自然発生的なものではなく、日常的にくらしを語る（つづる）、自分のくらしと重ねて語ることを、授業者の指導をもとに意図的・継続的に積み重ねていくことが重要であることをご指導いただきました。

3点目は、なかまづくりと人権・部落問題学習を結びつけることです。日常的ななかまづくりの取組から人権・部落問題学習を通して、自分のことやなかまのことで重ねながら、差別につながることを見抜き、差別をなくす主体者として行動する力をつけていくことが大切であることを学びました。



本講座で学んだことを今後の取組に活かしていただくとともに、各校・園でも還流いただきますよう宜しくお願いします。

アンケートより【一部抜粋】

・「自分のことを語る、自分のくらしを重ねて語る」ことを経験していく中で、いつか自分のことを話したいと思うようになること、安心できるクラスになると学び、今年度の取組がこれからにつながっていくと思うと日常の取組を大切にしていきたいと感じました。(小)

・子どもの生活背景を知ることの重要性やどのように知っていけばいいのか改めて考えることができました。自分の学級にいる生徒をイメージしながら話を聞いていると、あの子もこんな背景で悩んでいた、困っていたりすることがあるのかなと考えたので、話を少しでも聞けるように声をかけていきたいなと思いました。また、自分が何気なく使っている言葉で誰かを傷つけているかもしれないと見直すことができたので、学習を続けて自分の力を伸ばしていけるようにしたいです。(中)